

新 生

森と川 守り ほたるの 里づくり 小富士



東北新生園入所者自治会

平成二十六年六月 十日印刷
平成二十六年六月二十日発行

新生第六十六巻 第二号

新 生

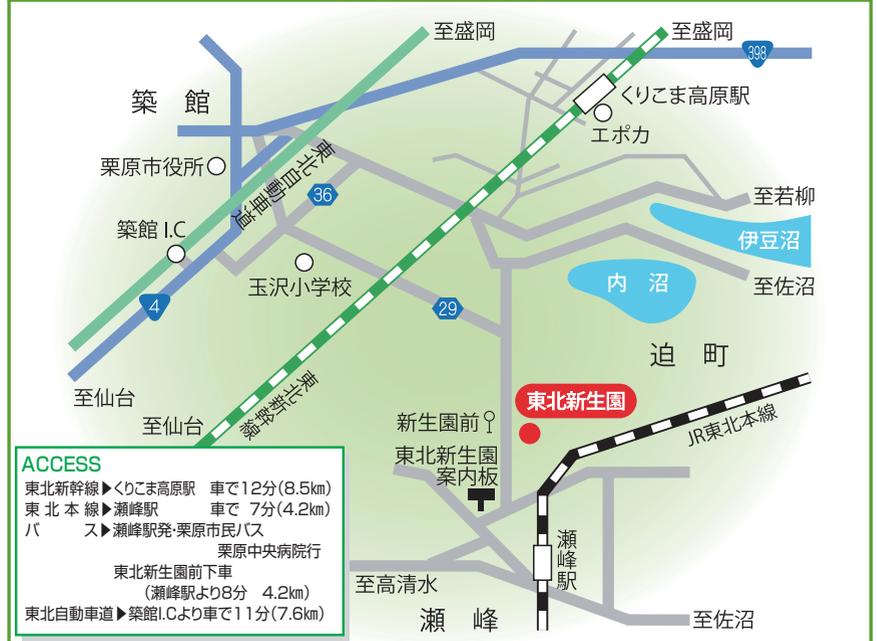
平成二十六年六月 十日印刷
平成二十六年六月二十日発行

第六十六巻 第二号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地		
土地面積	351,291㎡		
建物延面積	25,280㎡		
開園	昭和14年10月27日		
医療法承認病床	244床		
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科		
現在入所者数	男38名	女49名	計87名
職員定員数	153名 (平成26年4月1日現在)		
園長	医学博士	横田	隆

東北新生園交通案内図



春季バス旅行

— 平成26年5月23日 —



◀ 登米市登米町
とよま観光物産センター
「遠山之里」



登米市名物「油麩」を使った▶
お料理や
郷土料理「はっと」のお味は
いかがでしたか？



◀ お土産何にしようかな…
迷いますね♪

園内日誌

平成二十六年 一月～三月

《一月》

- 六日 正月行事（抽選会）
- 七日 新年賀詞交歓会
- 八日 新年寮長連絡会

《二月》

- 十四日 登米市健康推進課三名来園

《三月》

- 六日 真宗大谷派講演会（会長講演）
- 二十六日 転勤退職者送別昼食会（楓会主催）
- 三十一日 転勤・退職者離任式

【謝寄贈図書欄】

平成二十六年一月～三月（敬称略）

愛	多	菊	高	青	甲
生	磨	池	原	松	田
岡	東	熊	群	香	裾
山	京	本	馬	川	の
県	都	県	山	森	裾
			県	県	の
			大	松	裾
			島	丘	の
			青	保	裾
			松	養	の
			園	園	裾

平成26年6月10日 印刷
平成26年6月20日 発行

発行 東北新生園楓会(自治会)
編集 楓会文化部
印刷 川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

発行所 東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十六卷第二号……………目次

表紙…「ほう ほう ほたる」……………桃生 小富士

太陽の国 九州 麗しの郷 東北……………事務長…申 斐 龍 也…(2)
 お世話になります……………臨床検査技師長…宮 崎 優…(6)
 インドネシア訪問記(二〇一四年一月)「ハンセン病制圧運動」……………

就任のご挨拶……………WHOハンセン病制圧特別大使…笹 川 陽 平…(8)
 就任のご挨拶……………看護師長…佐々木 みちる…(16)
 転勤のご挨拶……………看護師長…山 田 裕 喜 江…(18)
 はじめまして……………看護師長…阿 部 京 子…(20)
 随筆「母娘の会話 絵画」……………看護師…小 山 麻 美…(22)
 ………………看護師…今 野 きよし…(24)

|| 新生文芸 ||

詩……………選 者…佐々木 洋 一…(28)
 短歌……………選 者…長 田 雅 道…(30)
 俳句……………選 者…山 田 桃 晃…(31)
 川柳……………選 者…石 田 隆 子…(33)
 随筆「看護師との会話」……………選 者…今 野 きよし…(35)
 園内日誌・謝寄贈図書……………

太陽の国九州麗しの郷東北

事務長 甲斐龍也

この四月から事務長として勤務させていた
だいております甲斐（かい）でございます。

厚生省時代から本省勤務で、社会保険庁、
総務省などの勤務が長く、ハンセン病療養所
については何一つ弁えておりません。でも、
当園転任の内示を頂いたとき不安は感じませ
んでした。想定外の異動に慣れていて、とい
うよりも御目出度いほど樂觀的なのです。

ところで、私は、初見の方に名字をご説明
する際、「生き甲斐とか、甲斐性があるとい
うときの…」と説明しますと「えっ？生きて
るカイ？あっ！貝殻の貝という文字ですネ」

守備につき打球音が鳴ったら眼を開けて…で
した。カミユの異邦人ではないですが…太陽
が眩しかったからです。上京しても治らず外
出時はサングラスが必需品です。それなのに
当園に来まして掃き掃除の際に帽子もサング
ラスもなしにお日様の下で作業しましたら、
案の定、お目々が兎さんになっていました。

アニメの巨人の星のヒロインの美奈さんは
宮崎の山奥の診療所勤務という設定ですが、
宮崎県は「九州の陸の孤島」と呼ばれていて
延岡市は天孫降臨の地とされる高千穂の近く
ですと言うと、清々しく心地よい風が吹く空
気の綺麗な街と思われるかも知れません。

でも、子供の頃、アレルギー性鼻炎を患っ
ていて、工場の排ガスのせいでは…と。父は
工場勤務でしたし、悪くは言えませんが、成
人後は一度も再発していませんので…。

学生時代は熊本に転居しました。学費も生
活費も稼ぐ必要があり、平日夜間は塾講師、

と誤解されることが多く困っておりました。

この名字は、九州の宮崎と熊本の県境に集
中しています。私が子供の頃は、地元の新聞
で、「織田軍に追われた武田の残党が九州へ
逃げ土着化し故郷を偲び甲斐と称するよう
になった。」という記事の記憶があります。

でも、歴史って、1192つくろう鎌倉幕
府ではないですけど、修正されるもので、現
在の熊本県の肥後菊池氏の一族が内紛により
甲府の甲斐国に移り住み、足利尊氏の九州下
向に従い甲斐氏を称して肥後に進出し…とい
うように、大きく塗り替えられています。

というところで、生まれは九州の宮崎県延岡
市という所です。旭化成の企業城下町で、柔
道とマラソンが盛んな街です。中学生の頃、
自転車に乗っているとマラソンの宗兄弟に
あっさり抜き去って行かれたものです。

私は長距離走を走る間は目を瞑ってしまし
た。小学生の時分ソフトボールも目を瞑って

夏休みは訪問セールス、日曜日は朝から職安
の前に立つて、やって来るトラックの荷台に
乗り、用水路工事、ビル解体、引越の荷物運
びと、ガテン系バイトに勤しんでいました。

これらの経験が大いに糧となっています。不
夜城の霞ヶ関、国会待機や予算待機が大変と
言っても所詮はデスクワーク。炎天下にずし
りと重い鉄筋を肩にしよって運ぶときのつら
さと比べればと堪え忍ぶことができました。

九州と言えば冬でも暖かいと思われること
でしょう。昔から巨人軍がキャンプに来ます
し沖縄返還前までは南国宮崎は新婚旅行先の
メッカでした。でも、日本最南端のスキー場
もあり、防寒対策が施されていないので冬場
の寒さは結構堪えます。九州は、一年中お日
様がキラキラと眩しい太陽の国なのです。

東北に来ましたのは二年前に東北厚生局に
来てからです。東北に来て良かったと感じる
ことは多々ありますが、水と空気がとにかく

美味しい。冷たい海で鍛えられた魚介類は最高に美味しい。松島海岸で牡蠣をいただいたときは言葉を失うほど。意外だったのは、ずんだです。想定を遙かに凌駕する美味しさ。

漫画が大好きなので、石ノ森章太郎先生、荒木飛呂彦先生の故郷で勤務できることに喜びを感じます。東北の人は芸術に対する愛情に満ち溢れ美意識がずば抜けています。そうでなければジョジョのキャラクターの決めポーズの奏でる流麗さを説明できません。奥州藤原氏の中尊寺金色堂の螺鈿の荘厳美は人間業とは思えません。伊達政宗の美意識の高さは金色の細い月形の前立の気品ある艶やかさを見れば一目瞭然です。言うまでもなく内面が美しく他人を思いやる暖かな心がなければ美意識は醸成されません。東北の人は寒さ対策を万全に整え美味しいものに恵まれ身も心も暖かく美意識を極めてきたのでしょうか。

私の両親は昭和一桁生まれです。父は話し

が通じなくなってしまう、殊に母が他界してからは、見守ってくれている姉との会話も成ししないようです。ですから、私の幼少時の出来事を確認する術がありません。

私が小学三年生の頃、実家に油絵が飾られていましたが、家族は無学で美術に関心も無く、それがミレーの晩鐘の模倣作と教えてくれませんでした。子供心に、その絵が醸し出す敬虔さ、感謝の念が夕暮れどきの暖かな空気に包まれて、見ているだけで癒やされました。その絵は父が父の実家の近所の方から貰ったと聞き会いたいと頼んだところ、今は遠くに住んでいて簡単には会いに行けないと諦めさせられました。二年後に父から会いに行くぞと言われ喜んでついに行きました。

そこは、自衛隊の基地の近くで長い塀に囲われた長屋が並んだ療養所でした。あっちゃんというお名前のおじさんと、すっかり仲良くなつて、絵の描き方を丁寧に教えて頂きま

した。当園に来ましてから、あっちゃんの心の優しさを懐かしく想い出しています。

私は、絵師の尾形光琳が好きで、東京勤務の頃、梅の咲く春先にのみ公開している紅白梅図屏風に会いに熱海に行ってきました。当園で白梅と紅梅が美しく咲いている時期に赴任でき望外の幸せに深く感謝しています。



ナイス！スイング!!
ボール飛んだかな？

満開の桜の下で
パークゴルフを
楽しみました



観桜会 パークゴルフ大会

—平成26年4月22日—

お世話になります

臨床検査技師長 宮崎 優

この度、弘前病院から臨床検査技師長としてこちらに赴任して参りました。どうぞ宜しくお願い致します。

出身は北海道札幌市です。今年二月のソチでの冬季オリンピックで、仙台出身の羽生選手が金メダルを取り、仙台市内で凱旋パレードが行われていましたが、冬季オリンピックと言えば、昔、札幌でも開催されたのをご存知でしょうか。それは、一九七二年の事でした。当時、私は札幌に住んでいて小学生でした。地下鉄が出来て、街も整備され、我が家でもテレビが白黒からカラーに変わりました。親がアイスホッケーの試合を観に連れて行っ

てくれ、その迫力に驚きました。学校に行ってもオリンピックの話でもちきりで、ジャンプの70m級で日の丸飛行隊が金、銀、銅を独占した後は、友達と近所のスキー場に行つて小さなジャンプ台を造り、「ジャンプごっこ」をして遊んでいました。女子フィギュアスケートでは、ジャネット・リンがすごい人気で、いわゆるアイドルでした。とにかく、小学生の私にとって衝撃的と言つていい出来事でした。当時の施設はまだ現役で使用されており、大倉山のジャンプ台はリフトで上まで上ることが出来るので、ちょっとした恐怖感を体験できます。

東北に転勤になって今年で四年目になりますが、時々無性に食べたくなるのがジンギスカンです。一口にジンギスカンと言っても、二系統あるのを御存じでしょうか。札幌で育つた私は、味のついてない肉をそのまま焼いて、「ベルのジンギスカンのたれ」をつけて食べるのが基本です。もちろん、もやしは

必須です。これに対し、滝川市発祥の「松尾ジンギスカン」なるものが有り、あらかじめタレに浸け、味付けしたものを焼いて食べるというスタイルです。略して「まつじん」と呼ばれています。滝川市近郊の人たちはこれが基本だと思つているようです。最近、札幌にも進出してきましたが、私は焼いてからタレをつける方が好きです。

ここ二年ほど行つていませんが、好きな場所の一つに八丈島があります。その昔、罪人が島流しにされた島、島も通わぬ孤島などと呼ばれてきたようですが、今は羽田からジェット機で五十分程です。どこがいいの、とよく聞かれますが、まず、離島というものへの憧れがあります。ちょっと高い場所から見ると島全体が見えて、ここが小さな島だということを確認できます。島には砂浜はほとんど無く、急な岩場に囲まれています。ダイビングや釣りをする人達にとっては絶好のポイントだらけですが、私はどちらもしません。

それじゃあ、何しに行つてんだという話ですが、昼間は山に登つたり、温泉が七か所あるので、温泉でばーつとしてたりします。そして夜です。温泉に入った後は、やはりビールでしょう。そして、島名産のくさやをたのみます。くさやは苦手な人も多いですが、私は大好きです。この島には、島酒と呼ばれるものが有り、それは芋焼酎です。芋焼酎といえば鹿児島ですが、それが何故遠く離れた東京都の島で造られるようになったかという、江戸時代に薩摩からこの島に島流しにされた一人の罪人が、薩摩で培つた技術で芋焼酎を造り、それが定着したということです。そんな話をお店の人から聞きながら、ビールから島酒に変えると、心地よい酔いがやつてきます。

とりとめ無く、好きなものを書いてしまいました。一日も早く、東北新生園にとけ込めるようがんばりますので、宜しくお願い致します。

インドネシア訪問記（二〇一四年一月）

―ハンセン病制圧活動―

WHOハンセン病制圧特別大使 笹川陽平

二〇一四年一月二十二日から二十九日にかけて、インドネシアの首都ジャカルタと東部のパプア州を訪問しました。インドネシアへの訪問は十四回目で、二〇一〇年八月以来三年半ぶりになります。

ご存知のように、インドネシアは人口二億四千万人と、中国、インド、アメリカ合衆国に次いで世界で四番目に人口の多い国です。大小一万三千以上の島々で構成され、約6,800の島を擁する日本や、約7,100島

のフィリピンよりも多く、世界最多になります。国民の多くはイスラム教を信仰していますが、島の多さからも想像できるように、多様な種族、言語、宗教を擁しています。

ハンセン病の新規患者数は18,994人（二〇一二年）と、インドの約十三万人、ブラジルの約三万人に次いで三番目に多い状況です。世界保健機関（WHO）が人口一万人あたり患者数一人未満と定義する「制圧」の基準は二〇〇〇年に達成していますが、ここ

数年は患者数の横ばい状態が続いており、対策の強化が必要です。また、蔓延地域が大小の島々に分散しているため、アクセスが悪く、地方分権化が進んでいるため、中央政府のみならず一つ一つ地方自治体の首長の理解を得る必要もあるのです。

ました。民族構成も他の地域と異なり、住民の多くがイスラム教ではなくキリスト教を信仰しています。「パプア」というと日本人が思い起こすパプアニューギニアは、同じニューギニア島の東半分の国で、インドネシアのパプア州は同島の西側になります。

今回の訪問は、ハンセン病対策の強化要請と、特に患者数の多いパプア州での活動が目的でした。また、もう一つの目的は、後ほど詳述しますが、毎年一月最終日曜日の「世界ハンセン病の日」に合わせて、ハンセン病の差別撤廃を世界中に訴えている「グローバル・アピール」をジャカルタで開催するためでした。

まず、ジャカルタについた翌二十三日、朝三時にホテルを出発し、パプア州の州都ジャヤプラへ、飛行機で六時間以上かけて移動し

ジャヤプラに到着後、ハンセン病患者、回復者の方々が多く暮らしているハマディ村を訪ねました。住民による歓迎のダンスがあり、ある老夫は日本語の歌を披露してくれました。同行者の日本モーターボート選手会の上瀧和則会長（モーターボート選手一六〇〇名が定期的にハンセン病活動に寄付をしてくれている）と御礼に、「みんな仲良く暮らしましょう」というメッセージを込めて、「どんぐりころころ」を村人たちに披露しました。この場所は一家に一人は患者、回復者があり、早期診断が進んでいるようで、子供たちの発症



—ハマディ村に住む回復者の方と—

が多くみられる一方、障害のある回復者は「恥ずかしい」ということで屋外に出たがらないということは差別の強さを実感するものでした。

翌二十四日は午前中に、パプア州のクレメン・ティナル副知事と面談しました。インドネシアは地方分権化が進んでおり、州の権限が強いため、ハンセン病対策を強化してもらうには州のリーダーの理解が必要です。私からは「ハンセン病にかかるのが恥ずかしい」と思っ病院に行かない人が少なくない。学校やメディア、あるいは議員の皆さんに協力していただき、この病気に関する正しい知識を伝えていただきたい」と伝えたところ、ティナル副知事は、人口三〇〇万人にも満たないパプア州に毎年1,300人以上の方が新たにハンセン病に罹っていることを初めて知り衝撃を受けたとし、「これから真剣に対策を

進めたい。知事にも報告し、州内二十九の県にしっかりと情報を伝達する」と返答されました。

その日の午後訪れた、ジャヤプラ市内のハマディ保健所では、一日約二〇〇名が通院するなか、ハンセン病患者は週に十五名から二十名が通院している。やはり、ここでも若い人や小さな子どもが多く、なかには四歳の女の子も治療を受けており、私が世界中で出会った患者の最年少でした。この病院で活動している唯一のハンセン病専門看護師のヴェラ・ヨクさんによると、患者のなかには、治療の途中で薬を取りに来なくなる人も多く、ヴェラさんが個別訪問して対応せざるを得ないのは人手不足で悩ましい問題であり、特に山岳地はハンセン病に対する偏見が強く、差別をおそれて病院まで出てこない。このままでは僻地に住む隠れた患者の発見は難しく希



—ハマディ保健所に通院する子供たち—

望が持てないと率直に話してくれた。

ジャヤプラでのプログラムを終え、二十五日は飛行機で一時間移動し、ビアク島を訪問しました。この地は太平洋戦争の激戦地でもあり、小さな島で一万人以上の日本兵が戦死したところです。私も、慰霊碑と日本兵が立てこもった洞窟を訪ねましたが、兵士たちも家族を想いながら病気や飢え、戦闘で無念にも倒れていった当時のことが想像され、胸がしめつけられる想いになりました。そのビアクですが、人口約十五万人、ハンセン病の間新規患者数は約一五〇人です。ハンセン病の患者さんが二名入院しているビアク総合病院、次に七〇名ほどが通院しているコタ保健所を訪ねた後、集落の外れの小屋で独りひっそりと暮らしているアビア・ルビアックさんという元漁師の方を訪ねました。この方は、十五歳で発症したときは治療して治ったもの



— アビア・ルビアック氏と —

の、足の神経に感覚がないまま歩いてきたため、五年前に怪我をして感染症にかかり足が不自由になったそうです。そして、現在はお兄さんが食事を差し入れてくれる以外は、一人で小屋の中で暮らしています。夕刻、改めて弁当をもって訪ね、一緒に食事をしましたが、「誰かのご飯と一緒に食べたのは久しぶりだ」と重い口を開き、「周りの人たちが歩いている姿を見て、自分も外を歩きたい。また海に行きたい」とはいうものの、その実現性のないことに全てを諦めた表情に戦慄さえ覚えた。この男はなんで悲しみも、怒りも忘れてしまったのだろうか。差別という過酷な世界は死よりも酷い世界ではないだろうか。

インドネシアには、このように一人ひっそりと暮らしているハンセン病回復者の方は少なくありません。私が訪問した一週間前にも、東ジャワで、家族から追いやられ森の中の

生活を余儀なくされ、ネズミや蛇を捕まえて五年もの間生き延びていた方が現地の新聞で報道されていました。特に僻地を中心に、ハンセン病に対する強い差別やスティグマが根強く残っているのが現状なのです。

ビアックを後にジャカルタに戻った二十七日、今回の大きな目的の一つである、「グローバル・アピール2014」の式典を開催しました。これは、一月最終日曜日の「世界ハンセン病の日」に合わせて、ハンセン病の差別をなくすために世界中の指導者や専門機関などと共同で発表しているアピールで、二〇〇六年から開始し今年で九回目になります。これまで、ノーベル賞受賞者、ハンセン病回復者、人権NGO、宗教指導者、世界的企業の代表、大学学長、各国の医師会、法曹協会から賛同を得て発表してきました。今年も、三十九ヶ国の国家人権機関から署名を得て、インドネシア人権委員会と共催で式典を行い



— グローバルアピールを読み上げる —

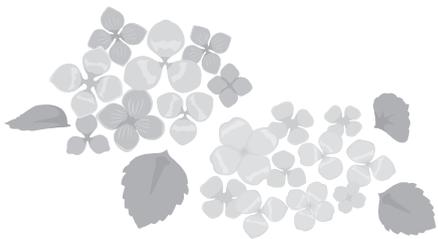
ました。国家人権機関（あるいは国内人権委員会）とは、裁判所とは別に人権侵害から救済と人権保障を推進する政府から独立した国家機関で、日本にはまだ存在していませんが、世界の多くの国で重要な役割を果たしています。

式典には、アグン・ラクソノ国民福祉担当調整大臣、ナフシア・ムボイ保健大臣、ディアント・バフリアデイ人権委員会副委員長のほか、海外からもインドやヨルダン、タイ、フィリピンから人権委員会の代表が駆けつけてくれ、インドネシアの回復者組織である「ペルマータ」の会員も多数参加しました。ラクソノ大臣はユドヨノ大統領の名代として、「ハンセン病が未だに多くの人に怖れられ、不治の病、遺伝病、天罰といった間違った考えや迷信が残っている。これらの間違いを正し、差別がなくなるよう、そして早期の発見

と治療が徹底されるよう、人権委員会や保健省と連携して取り組んでいきたい」という表明がありました。私からは、「各国の人権委員会が回復者の人権を守り、促進すること、彼らが直面する様々な人権侵害を調査し、政府に進言すること、国内関係者や市民社会と協力して継続的な啓発活動と一般向けのキャンペーンを行うこと」などの期待と要請を訴えました。

ハンセン病の問題は病気を治せば終わりというわけではありません。たとえ完治したあとでも、社会に根強く残る差別やステイグマと闘わなければなりませんし、本人の絶望感や恥ずかしいという思いをやわらげ、自信を持って暮らせるよう励ましていくことも必要です。そのためには、当事者である回復者が中心となりながら、医師や看護師はもちろん、

政治家やメディア、宗教指導者、人権専門家など様々な関係者が協力し、継続的に忍耐強く取り組むほかありません。人々が尊厳をもつて笑顔で暮らせるよう、これからもインドネシアの島々を何度でも訪ねたいと思います。



就任のご挨拶

看護師長 佐々木 みちる

皆さん初めまして。この度、四月から国立病院機構釜石病院から山鳩センター看護師長に就任しました佐々木です。よろしくお願ひします。

生まれは秋田県の仙北郡仙北町という秋田県内では南東に位置するところで、平成十七年に仙北郡七町村と大曲市が合併し現在は「大仙市」となっています。就任の挨拶ということで皆さんに何を伝えようかと迷いましたが、今回は地元の観光の目玉である行事「大曲の花火」について書かせて頂きます。

「大曲の花火」はご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、音響・色彩・安全の面

からも全国一の打ち上げ場と言われています。雄物川の水面に映る花火が美しく、対岸の姫神山に反響した音も観客を楽しませ、また、付近には邪魔な光もなく、花火観覧に持つてこいのロケーションとなっています。

大曲で花火を打ち上げた歴史は古く、明治四十三年八月二十六・二十七日に地元の諏訪神社において「六県煙火共進会」として開催されたのが始まりで、大正四年には「全国花火競技大会」と名称を変更し、花火業者は毎回新しい技術を取り入れながら切磋琢磨し、競い合う大会となりました。

「大曲の花火」は花火を作った本人が打ちあげなければならぬこと、また、内閣総理大臣賞・経済産業大臣賞など授与されることから、識者の中で最も権威ある、全国の花火師が目標とする日本一格の高い大会とされています。

花火大会会場の河川敷は今こそ足の踏み場

もないくらい沢山の人が来るようになりましたが、私が子供の頃（今から三十五年前くらい？）は人と人との間隔に相当の余裕があり、場所を前もって確保しなくても十分迫力ある花火を堪能することができました。その当時の私は格式高い大会とは知らず、花火大会の日は母に連れられ会場に行き、適当な場所にレジャーシートを広げて夕飯を食べた後、横に寝転がって花火の開花する「ドーン」という音と地響きを全身に感じながらいつのまにか眠ってしまうというのがパターンでした。その当時の来客数はわかりませんが平成二十二年は七十六万人で、大仙市の人口が約九万人なので、人口の八倍以上の人が花火大会会場に集まったこととなります。その人の多さも地元では夏の風物詩といえそうです。

車・人の混雑で行きたくないという方もいらっしゃると思いますが、大会会場は約一八

〇度何も遮るものがない所に花火があがるので、数キロメートル離れている私の実家からも遠くに打ち上がった花火と音を楽しむことができます。花火が見える民家ではベランダや庭、車を止めて農道で見ている人もおり、人混みは苦手という方には渋滞に巻き込まれない位の距離での花火鑑賞もおすすめです。

ほぼ毎年会場で花火をみてきた割には花火の知識は無いに等しい私ですが、最近はプログラムを見ながら観賞する楽しみ方を覚え、ただ見て「きれいだな」「大きいな」というだけではなくテーマや音楽と合致しているか、花火の見え方や色の変化等今までに見たことのない「技」の出来を比べ見応えを感じようになりました。

大会の目玉はなんとと言っても「大会提供花火」。スターマインといって、いくつもの花火が連続で打ち上がる景色は圧巻です。そして、全ての花火が終わると対岸の花火師さん

とペンライトでエールを送り合うのですが、観客と花火師さん達の思いが通じあっている光景に感動します。会場にお出かけの際には実際にこの体験もしてほしいと思います。(ペンライトは忘れなく)。

以上、地元の有名な催し物について書きましたが、新生園の睦ヶ池でも七月に花火大会が予定されているので、ふるさとを思い出しながら、間近にあがる花火を楽しみにしていきます。

就任のご挨拶

看護師長 山田 裕喜江

四月より国立病院機構花巻病院から参りました。花巻病院では、精神科と重症心身障害

を持つ患者様との関わりでした。外来での勤務でしたので、患者様とお話する機会も多く、患者様と接することが大好きな私にとっては大変楽しく三年間勤務させていただきました。

東北新生園に異動してから約一ヶ月半が経過しました。この間に紅梅、白梅の美しさに感動しつつ、こちらの園の歴史について考えると胸が痛む思いがしました。

ハンセン病については、看護学生の時に東京の多磨全生園を見学に行ったことがありますが、以降、関連する施設に勤務する機会がありませんでした。この度、御縁があり東北新生園に勤務させていただくことになりました。

ハンセン病について学びながら、その歴史や皆様の思いなどについて理解を深めていきたいと考えています。

さて、私のことについて少し書かせて頂きたいと思います。私は、岩手の出身ですが、

いがなく、食べることが大好きな私にとつて、この上ない幸せを感じながら日々の生活を送っています。あまりにも食べ物がいいため自然に体重の方もますます増加傾向の状況です。健康のためにも何か始めなければいけないと感じています。健康第一ですので、自己管理をしっかりしなければと思う自分と、疲れるから休みたいと思う自分と、行動化することに対して二の足を踏んでいる状況でした。

今年こそはと毎年考えているのですが…本当に今年こそは何とか実践したいと思っています。

自己紹介ばかり書かせていただきました。今後は、この東北新生園で、たくさんのお話を経験し、多くの事を学び、皆さんに寄り添いながら、安心して安全に生活いただけるようにお手伝いさせていただきたいと思えます。

どうぞよろしくお願ひします。

看護学校が神奈川でしたので、それ以来神奈川での生活を送ってきました。五年前に実家の都合で岩手に戻って参りました。岩手での生活は、春には、週末に森林浴も兼ねて主人と山に出かけるのが楽しみです。夏は過ごしやすですが、冬は花巻への通勤の際には特に雪が多く、車の運転をしながら、どうしてもこんな所に来てしまったらうと考えることもありました。今の春の季節は、家の庭の緑が鮮やかで、うらかな霧囲気に心が和みます。田植えのころは、田んぼに囲まれている我が家は田んぼに水を張った日から蛙の合唱が始まります。最近、蛙の鳴き声もかわいいたさえ感じられるようになりました。又、カルガモの親子がどこからともなく現れ、大変ほほえましい光景が見られます。田舎は、食べ物がとてもおいしく感じます。特に山菜などの山の恵みや、海の恵みなど本来の自然の素材の味が都会のものとは違って本当においしく感じられます。好き嫌

転勤のご挨拶

看護師長 阿部京子

このたび、東北新生園の看護師長としてこちらに転勤して参りました。よろしくお願いいたします。

私は、岩手県一関市出身です。地元の高校卒業後、「矢切の渡し」で有名な場所の近くの付属看護学校に進学しました。私は、小学校まで、どちらかというところ「ひ弱だ」と家族に言われるくらい入院や通院をしました。その時に出会った看護師さんに惹かれ、小学校卒業時には職業を看護師と決めていました。また、家族に「おまえはからだ丈夫でないから看護師は無理だ。」と言われ続けて反骨精神を持ったのかも知れません。看護学校で

もまた、坂道を上ったところにあり自然が豊かでした。就職当初は、二十代の看護師は数人で、大先輩が大勢おり緊張する日もありましたが、指導を受け楽しく看護することができました。気づくとそれから四半世紀が過ぎてしまいました。四半世紀というとても長く感じますが、自分にはあつという間です。しかしここ数年は、新採用者が二十代、親の年齢を聞くと私より年下と言うことも少なくなく、年の経過を感じざるをえません。

そのような近況の中、新生園へ転勤の話がきました。その時思ったのは、通勤に対する不安でした。なぜなら、私は通勤五分以内の経験しかないからです。恥ずかしながら社会人としての初歩の初歩である、遅刻しないように出勤できるか、心配でした。通勤を始めて、一ヶ月が過ぎますが、なんとか無事通勤でき安堵しています。片道約一時間の通勤、季節の変化に気づく余裕も出てきました。満

は、出身者が東北人、しかも岩手県人が多く田舎者と思われず、方言やなまりを気にせず過ごすことができました。敷地内は広く、春は桜が咲き誇り、夏は初めて聞くウシガエルの声、蛇が道路を横切る、秋には銀杏を踏みしめ通学、冬は意外に寒さが身体にしみ、そんな自然豊かな場所で過ごしました。看護学校卒業後、附属の病院で二年間働きました。この二年間は、私が看護師の道を選んで本当に良かったと確信した時期であり意義ある二年間でした。それは、声が小さく廻りに聞こえないと言われたのが一年後には、看護師長から「声が大きくなった。一番変わった。」と言われ誉められ育てられ、患者さんを援助していく中で看護のすばらしさを感じ、また看護の道が楽しいと思ひ、今に繋がっているからです。

親元を離れたのは五年間で、その後私は一関に戻り岩手病院に就職しました。岩手病院

開の桜、山々の新緑、田植えシーズン等々。

初めての当直の朝、第一メープルケアセンターの三階の食堂で入所者さんが食事を摂っていたところへ挨拶に行きました。笑顔で受け入れてくださいました。また、その時窓から見える景色のすばらしさに、とても感激しました。遠くまで見える景色、そして園の桜と池と橋に朝日がふりそそぎ、何とも言えぬ景色でした。私が看護師として勤務している場所は、どこも広い敷地に豊かな自然に恵まれていると感じています。

私は、第一病棟に勤務しています。早期に回復し元の生活に戻れるように援助していきたいと思ひています。また、入室中もその人らしく快適に過ごせるように援助していきたいと思ひていますのでよろしく願ひいたします。

はじめまして

看護師 小山麻美

四月一日より東北新生園第二メープルケアセンター・治療棟勤務となりました、看護師の小山麻美です。

勤務してから一ヶ月が経ち、少しずつ入所者の方々に名前を覚えてもらい嬉しく思っています。

ここで簡単ですが私の自己紹介をさせていただきます。私は登米市中田町の出身です。家のすぐ近くには北上川が流れ、りんごやきゅうりがたくさんとれる地域です。

私が看護師になりたいと思ったのは、小学四年生のころ、肝機能の数値が異常に高くな

傷などの患者さんの看護をしてきました。毎日、手術が数件あり、一日に入院してくる患者さんも多く、その対応などで忙しい毎日でしたが、その分とてもやりがいのある病棟でした。この病棟の多くの患者さんは運動機能に障害をきたしており、日常生活のお世話が中心で、ほかの病棟より体力のいるところでした。大きな怪我で治るのに時間がかかる方や麻痺などの後遺症が残ってしまう方もいました。回復過程が目に見えて実感できることもあり、喜びも大きかったです。

看護師四年目の時に結婚し、その後二年間仙台で暮らしていました。夫は仕事で栗原市から四年間の任期で仙台に派遣されており、任期が終了となった平成二十五年の三月に築館に引っ越してきました。初めは新幹線や車で医療センターまで通おうかとも思いましたが、二人の子供を育てながら通勤するのは難しいと感じ、どうしようか悩んでいました。そんなときに、看護学校時代の友人から「先

り入院したことがきっかけでした。そのときの看護師さんに優しく接してもらったことや、大好きだった祖母が入院して、よく看病しに行ったこともあり、もの心ついたときから看護師になりたいと強く思うようになりました。高校を卒業後、仙台医療センター付属仙台看護助産学校の看護学科に進学しました。初めて親元を離れ、寮での生活が始まり、三姉妹の末っ子で、甘えん坊だった私にとってはとても寂しく辛いものでありましたが、すぐに友達もでき、仲間と過ごす三年間はとても楽しいものでした。また、辛い実習も同じ看護師を目指す仲間たちと支え合いながら乗り越え、無事に看護師の資格をとることができました。卒業後は、医療センターの整形外科・形成外科病棟で七年間勤務しました。整形外科では外傷や転倒による骨折、脊椎、膝や股関節等の患者さんを、形成外科では熱傷や血管腫、血管奇形、切断指や神経損

傷で結婚を機に新生園に異動した人がいるよ。」という話を聞きました。国立病院機構であっても、療養所である新生園に異動できるとは思っていなかったもので、上司にすぐ相談し異動の手続きをとってもらいました。

ハンセン病については、まだまだ分からないことが多く、入所者さんに会う前はどのように関わっていけばいいのかと不安もありました。しかし実際に関わってみると皆さん温かく、処置の仕方などいつも優しく教えて頂き、嬉しいのと同時に不安も軽減してきました。今はまだ仕事に慣れることで精一杯なところもありますが、入所者さん一人ひとりに細やかな援助ができるように努力していきたいと思っています。皆さんにご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、先輩方からご指導をいただきながら成長していきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

母娘の会話 絵画

今野 きよし

A 娘 B 母

A 母ちゃん高校の時何やったの
B 勉強か、それとも部活のことか
A その部活、何やったの
B 別に何もなかったな
A 必ず何か一つ入ったでしよう
B それは一つは入った、なんだっけ忘れた
A そんなに忘れっぽくなったの
B いろいろ入ったからな
A そのいろいろのこと聞きたいの
B そうか、いろいろのこと聞きたいのか
A 始めは新聞部って聞いたことあるね

B そうだったな、それから美術部にも入った
A そうでしょう、いろいろ入ったんだね
B 入ってみるとすぐ覚えたからな
A そんなにいろいろのことすぐわかったのか、すごいね
B わかったというよりも、いろいろやってみたかったな
A それでは、母ちゃんは万能選手なんだね
B そんなことないよ、みんなと同じ高校生だよ
A それで同じ高校生なのか、私にはとてもできない
B 何も不思議がることないよ
A うちの母ちゃん、万能選手と書くかな
B 何に書くの
A 今度秋の文化祭に、なんでも良いから作品を出しなさいって担任の先生に云われた
B それええでないの、芸術の秋だもの

A それでね、私も何かと考えているの
B 高校時代は二度と来ないからね
A そうなんだよね
B 私も高校時代はそうかと思って聞いていたけどなあ
A いろいろやったお母さんでも
B 自信持って話すことないもの
A そうなんだ、人はそれぞれ一に勉強、二にも勉強なんだ
B そうよ、そうなんだよ
A 今日は良かった、お母さんの本音を聞いて
B これが本音か、これはほんの一部よ
A 一部でも良い
B それは良かった
A 母ちゃんに本音まだあるの
B あるある、いくらでもある
A 何なの本音って
B 本音とはさっきあなたに話をした高校の部活の話よ

A 部活の話って何のこと
B 部活の美術で絵を描いていた話、忘れたって云ったけど本当は忘れていないの
A 本当は絵を描いていたのか
B 私は絵描きになって一生送りたいと思っただ時もあった
A 続けなかったの
B 現実はその甘くないものでないから、二十年も三十年もの暮らしをどうしようと思っただけ、じつと心の中にしまっておいたの
A 母ちゃんはそういうしつかりした考え持っていたんだね
B そういう希望があったの
A それは初めて聞いた
B そうよ、あなたの真剣な眼差しにつられて本音を云ってしまった
A 母ちゃんは今、内緒の話を云ってしまったのか
B この話は両親にも父ちゃんにも云ったことない

くりするよ
 A それいつになるの
 B そうだなあ、後十五年位かもつと後、た
 A 夢のような話だね、待ちきれないね
 B 長いからえんだべ、すぐでは楽しみなく
 A なるものな
 B それから石の話どうなったの
 A 石は大きいの中から小さいのから石を拾つ
 B て集めて、世界中の名画を石に描いて展
 A 覧会を開くの
 B 大変大きい夢だね
 A そうよ大きいだよ、そして協力して下
 B さった皆さんを呼んで洋画にふさわしい
 A コーヒーを、又日本画にふさわしいお茶
 B を用意するの
 A モナリザの絵を描くの
 B 描くよ、秋の鳴子の紅葉も良いしね
 A 待ちきれないね
 B 一番の理解のある、お姉さんお嬢さん宜
 A しくね

A それで今は黙々と家族の生活のために働
 B いてくれているんだね
 A そういうこと、私のことを理解してくれ
 B るのはあんたが一番だからね
 A 母ちゃん、皆話して気をゆるめないでね
 B いや、本音を語ってかえって別の希望が
 A わいて来た
 B それは何なの
 A それはね、私の始めていることがあるの
 B 私はそのことを早く知りたいね
 A 着々と手始めにやっているのよ
 B 絵を描くことでしょう
 A そうだ、只の絵でないの、面白いのよ
 B それは早く見たいね
 A それは川原に行つて石を拾つて来て、絵
 B の具を塗っているの
 A それどうするの
 B それはね、その石に絵を描くのよ
 A それ母ちゃん隠していたの
 B 何も隠すも何もしないよ

A 私はそれ見たことないもの、どこにある
 B の
 A 座敷に置いてあるでしょう、見ても見つ
 B けないでしょう
 A それお父さん知っているの、誰にも云わ
 B ないの
 A 云わないよ、隠すもしない只自然によ
 B 母ちゃんつてすごい、そういうことやっ
 A ていても黙っている、やっぱり母ちゃん
 B だね
 A 私はね、これをもつと広げて川原の石を
 B 集めて、今は小さいのだけでももう少し
 A 大きいのも集めたい
 B それからどういうことするの
 A 勤めを大事にして定年まで働いて、それ
 B から鳴子江合川（荒雄川）の石を拾いに
 A 行く
 B その時私も連れて行つてね
 A 皆さん連れて行くよ、鳴子の姥の湯温泉
 B に家族全員で温泉の湯につかり乍らゆっ



離任式

—平成26年3月31日—



長い間
 ありがとうございました

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《早春の午後》 今野 きよし

第一メープル
ケアセンター
二階ダイールームから
外を眺めた
太陽は西に傾き
裏の建物に

光りが当たっている

目の前を今晚の
当直の先生が
車から下りて
歩いて行った

裏山を眺めると
一段高い処に
メタセコイヤが
天に向かって
聳えている
世界で一番高く伸びて
古い種類の木で
石炭の原料に
なったと聞いた
目を右に移すと
赤松杉の木と

空に向かって
手を伸ばしている

東の方には
災害避難広場があり
中に池を挟んで
東屋四棟が
建っている

東屋の西と東に
風車二基が
風にくるくる
廻っている
自家発電に
使ったなら
どの位の光りが
出るのか楽しみだ

まだ寒い

【選評】

《早春の午後》

今野 きよし

冒頭の入り方が印象的である。前半のまだ冬の中にある情景を具体にとらえたことが、後半の春を待つ作者の強い気持ちをより際立たせている。生きることの喜びをもらえる作品である。



短歌

長田雅道選

◇ 入 選 ◇

今野 きよし
いつまでも残雪多き療園に待ちに待つ
春の早く来て欲し

【選評】

北国に住む人たちにとっては春の訪れは本当に待ち遠しいものである。この歌、上の句の具体的な表現で下の句がいきいきと感ぜられ、秀れた一首になっている。

◇ 佳 作 ◇

今野 きよし

リハビリに通うに足の痛みあり車椅子にて送迎受けて
思うこと言葉正して話すのはなかなかできずしどろもどろに
どか雪の積もりし道を除雪車のライトまぶしく進みて行けり
紅梅の根元に雪の残りおり花の咲くのを待ちわびている
ソチよりのテレビ放送見たくなり夜中に起きてスイッチ入れる
この年でやっと気づいたこと多く無駄でなかつた長い年月

俳句

山田桃晃選

◇ 入 選 ◇

今野 きよし
難聴の話ちぐはぐ山笑う

【選評】

音を聞く力が減って聞きとることが難しいので、話のやり取りがどうしても食い違うのであろう。でも山は春らしい風の動きがある。

盆棚へ母の好物スイカかな
斎藤 照雄

◇ 佳 作 ◇

齋藤 照雄
足癒えて桜の園をひとりじめ
やすらぎを盆の風よりもらいけり
青梅をかじり若さをピーアール

【選 評】 お母さんの好きだった西瓜、私も大好きな西瓜、先祖様の御霊へ先ずは供える。食べやすく櫛形に切って、いや切らずにでんと据え、妣の喜びの顔がある。

園 永 泊
流れゆく水の音より水温む

園 永 泊
目立ち屋のアクセサリーのマスクかな
厳冬や居座っている雪だるま
他人事に口入れしないクルミかな

【選 評】 何にも言っていないが水音が流れゆく音にと春らしさを感じとった。すばらしく気持ちの良い自然の風景が見えて来る。

今野 きよし
珍客に言葉どまらずく猫柳
花の宴眺めて通る車椅子
外科医師の訛り親しく花の風



◇ 入 選 ◇

《人位》
今野 きよし
隠し事長く持たない春の雪

【選 評】 春の雪は、あつと云う間にとけてゆく。雪を被った大地も草木も、その姿を露にするが、隠し事と春の雪を対比させ、見事な一句になりました。

《天位》
桜山 南 仙
もう一つ地球があれば平和かな

【選 評】 ロシア、中国、韓国と領土問題を抱える日本。隣国の挑発は続くが、安倍総理も頭が痛い。領土問題は、戦争への引き金にもなりかねない一大事。「もう一つ地球があれば……」とは、南仙さんらしいブラック・ユーモア？

《地位》
桃生 小富士
哭き乍ら吹き抜けてゆく春嵐

【選 評】 長い冬から春へと季はうつる。一つの時を越えて生きる、作者の姿が浮かぶ。嵐のような人生を、慟哭と共に越えんとする小富士さんに感銘しました。

◇ 佳 作 ◇

齊藤 照雄

ランドセル遊んで行けと土手の花
春うららその裏側で血を流し
身も魂もとろける様な日なたぼこ
病む足を引きずり春を迎えけり

桃 生 小富士

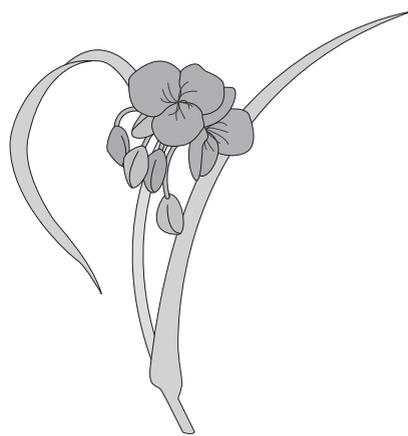
帰れない古里の海俺を呼ぶ
終活の答えは合掌の中にある
法話聞く心いつしか丸くなり

今野 きよし

譲り合う相手居なくて気が抜ける
年重ね不義理重ねて生きている
若いねと云われて年に気づかされ

桜山 南仙

背伸びして女あくびを捨ててさり
日本の拳がやり場無く震え
ともすればおのが言葉で墓穴見た



随筆

看護師との会話

今野 きよし

A 入園者 B 看護師

A ああ早いですね
B お早うございます御飯ですよ
A ごちそうさま
B よく眠られましたか
A はい、よく眠りました
B それは良かったですね
A 看護師さん東京の人みたいですね
B 私は地元ですよ
A 私はなんだか違うような気がして
B 地元も地元、S町に住んでおります今は
A はあ、そうですか

A B 信じられませんか
A 私はね、なんとなく違う気がしたもので
B すから、時計もあか抜けしたのをかけて
A おりますし
B 私の生まれはT町、育ちも地元です
A あの有名な隠れキリシタンのT町ですか
B そうですよ、不思議ですか
A そう云われますと何も云われませんね
B それでは今度来る時は東京に行つて来ます
A 首を長くして待つておりますから
B 東京みやげ何が良いですかね
A そうですね、みやげ話が良いですね
B そうですか、私を待つて居て下さる方が
A 他にもございます
B キリシタンのお話も聞きたいですし
A 私はね地元ですけれども良くわからない
B ですよ、学校も忙しかつたから
A そのお話この次に楽しみにしています
B 私はね話好きと思われておりますけれど
A も、自分ではそうは思つておりません

A そう云えばこの間の忘年会、水戸黄門の劇のとき代官とのやりとり実に堂に入っていましたね

B あれですか、大変苦勞しました

A どうしてですか

B 相手の代官役の〇さん、台本抜きのアドリブで話をしますのですについて行くのが一杯でした

A そうですか

B そうですよ、皆さんは良かったと云って下さったので安心しました

A 私もあの時は、只おかしくおもしろかったです

B そうでしたか

A 今度ね、キリシタンのお話聞きたいですね

B 私もよく勉強して皆さんとお話をしたいと思っております

A 待つております楽しみ

B 勤めの合間を見て実家に帰って調べて参ります

A 子供の頃のお話でもええです

B 子供のときはキリシタン遺跡の三経塚で遊んだものです日が暮れるまで

A そうですか、目に見えるようですね

B 夕方、家に帰って私は御飯の用意、弟は風呂の番と受け持ちで両親が帰るのを待つたものです

A 夕方、家に帰るの楽しいような氣しませんでしたか

B それはありました

A そうでしょうね、遊ぶの楽しいですものね

B そうでしたか

A そうですか、今日はいろいろお話伺いまして楽しかったです、これからも宜しくお世話になります

B 思いがけないお話でした、話つておもしろいですね、何が出るかわかりませんが今日はお忙しいところありがとうございます

B それではね、又参ります